

第20回松山大学図書館書評賞 表彰式



2020年12月17日(木)に第20回松山大学図書館書評賞の表彰式を開催しました。今年度の表彰式は、新型コロナウイルス感染症対策として、出席者を受賞者と図書館長及び審査委員長に限定し、マスク着用・換気・3密を考慮し執り行いました。

優秀賞を受賞された石川 晴菜さん(人社1年・中央右)、佳作を受賞された今村 麻衣さん(同2年・中央左)です。受賞おめでとうございます。

注) 受賞者の学年は受賞時のものです。また、記念撮影時のみマスクを外しています。

Contents

特集

第20回松山大学図書館書評賞 [ P1~5 ]

松山大学ビブリオバトル2020(後期) .....	P 6
企画展示図書を紹介 .....	P 7
C3の活動紹介 .....	P 8

## 第20回松山大学図書館書評賞 | 受賞者 |

今回は応募総数16作品(15名)の中から厳正な審査のもと、2名の受賞者を決定しました。受賞者、受賞作品は以下のとおりです。

### 最優秀書評賞

該当者なし

### 優秀書評賞(1名)

石川 晴菜(人文学部社会学科1年次生)  
『何者』朝井 リョウ著 新潮社

### 佳作(1名)

今村 麻衣(人文学部社会学科2年次生)  
『殺人出産』村田 沙耶香著 講談社



注)受賞者の学年は受賞時のものです。

## 全体講評

審査委員長 薬学部准教授 中村 真



今回の図書書評賞には16作品(15名)の応募がありました。これらの書評のうち、8作品は小説に関して、8作品は社会問題に関する本に関して書かれたものでした。2020年のコロナ禍に見舞われた特殊状況下で、図書館書評賞にチャレンジした15名の学生諸君の熱意と努力に敬意を評したいと思います。

さて、今回は最優秀書評賞の該当作品が無かったわけですが、そもそも「書評」って何なのか考えてみたいと思います。みなさんは、最近、書評を読んだことがあるでしょうか？ 一般的に見かけるのは新聞の書評欄でしょうか。それらの多くは新刊の書籍を知らせるもので、書評を書いているのは著者の関係者であることが多いと思います。新聞の書評を読めば、その新聞社が「読む価値あり」と判断した書籍に出会うことができます。私がよく読むのは、ある週刊誌の書評欄で、そこでは複数のコラムニストが数冊の本を毎週紹介しています。“複数の”というのがひとつのミソで、自分の趣味趣向と一致するコラムニストもいればそうでないものもいるわけです。信頼できるコラムニストの書評は、私が本を探す上できわめて役に立つ情報となります。私が考えるに「書評」には読者にその本を“読むに値する”と考えさせる力が必要なのではないでしょうか。その前提として、その書評そのものが容易に読むことができる(=文章の欠陥が無い)、本のストーリー(あるいは内容)が魅力的かつコンパクトにまとめられていることが必須であると思われます。その上で、あなた自身の読書遍歴の中でのこの作品の位置づけとか、この本が扱うトピックスに関する知識の豊かさなどが読者に伝わらないと、“読んでみようという気をおこさせる”ことはできないのではないのでしょうか。要するに「書評って、なかなか奥が深い」ということになります。

ちなみに、私は書評審査を終えたあとで、浅井リョウ著「何者」と村田沙耶香著「殺人出産」の2作品をAmazonで購入した次第です。私にこれらの本を引き合わせて下さった、石川晴菜さん、今村麻衣さんに心から御礼を申し上げます。我々審査員一同は、来年度こそ最優秀書評賞を選出したいと考えています。みなさんも図書館書評賞2021に向けてどんどん読書に励んでください。おっとその前に、新聞の書評欄も読んでみましょうね。



優秀書評賞



石川 晴菜

(人文学部社会学科1年生)

『何者』

〔請求記号：081/S 15/10268〕

著者：朝井 リョウ

出版社：新潮社

出版年：2015

「何者」表紙に書かれた大きなタイトルを見て、自然とこの本に興味を持った。「自分は何者なのか」これはきっと誰でも一度は考えたことのある疑問だろう。

本書は、就職活動を通して、自分は何者なのかを改めて考えさせられる話である。主人公の拓人は、同居している光太郎のバンド引退ライブを見に行く。その会場で、留学から帰っ

てきた瑞月と再会した。その後、瑞月の友達である理香と理香の彼氏である隆良が同じマンションの1つ上の階で同居していることを知る。そこで就職活動を控えた5人で就活対策を始めることになった。考え方も性格も全く違う5人が「何者」かになるために試行錯誤する。何度もエントリーシートを書き、面接練習をし、実際に受けに行く日々が続く5人だが、簡単には内定をもらえない。徐々に方向性の違いや焦りから表に出さなくとも険悪な雰囲気になる。人は、誰しも心のどこかで自分は間違っていない、自分が一番でありたいというような気持ちを持っている。就活を通してあらわになる心情にリアルな人間味が感じられ、すらすらページが進んだ。

そんな中、物語が動く。瑞月の内定が決まり、5人でお祝いすることになったときのことである。プライドが高く、上手くいかなかったら他人事のようにふるまう隆良に対して、瑞月が厳しくもためになる言葉をかける。「生きていくことってきっと、自分の線路を一緒に見てくれる人数が変わっていくことだと思うの」この言葉を聞いて、私も納得した。小さい頃は周りの人が一緒に考えてくれて、責任を負うことも少なかった。しかし、大人になるにつれて一緒に考えて責任を取ってくれる人は減り、自己判断をする機会が増える。もう他人任せにはできないという瑞月の大人な考え方は読者にも刺さるはずだ。

さらに、ラスト30ページ、強く物語に訴えかけられる。あることをきっかけに理香は、以前から溜まっていた思いが遂に爆発する。理香は、拓人が人を観察しては嘲笑していることを指摘する。そこで拓人はなぜ内定がもらえないのかに気づかされる。最後は、「何者」かになろうとせず飾らない姿で面接に挑む。果たして無事内定をもらうことができるのか。5人が次第に成長していく姿が描かれた作品である。

本書を読むまで、私自身もいつかそのうち変われると思っていた。しかし、「私たちは何者かになんてなれない、カッコ悪い今の自分を理想に近づけるためにがむしゃらにあがくしかない」という言葉に現実を突き付けられた。完璧にできなくてもとにかくやってみること、その行動力が大切だと感じた。読後は重い気持ちになったが、強く共感できる内容であった。物語の伏線が上手く、飽きずに読み進めやすい作品となっている。ぜひ読んでみてほしい。

講評

審査委員 経済学部准教授 小西 邦彦



就職活動を通じて繰り広げられる5人の若者の物語を分かりやすく説明できており、文章表現もレベルが高く、非常に読みやすい書評としてまとまっていました。また、物語の登場人物と同年代である評者ならではの視点で自身が感じたことや本書の魅力がバランスよく書かれており、この書評を読む人達に本書の良さを伝えることができている書評であるといえます。



**今村 麻衣**

(人文学部社会学科 2年次生)

## 『殺人出産』

[請求記号：913.6/Mu]

著者：村田 沙耶香

出版社：講談社

出版年：2016

あなたには、殺したいと思う人はいるだろうか。主人公の育子が住む世界には、殺人出産システムが存在する。このシステムは、10人産んだら1人殺してもいい、とするシステムだ。殺人出産システムで殺人をする人は「産み人」と呼ばれ、崇められるようになる。産み人から生まれた子供は、新生児の10%を占めるようになっていくほどである。産み人という正しい

手続きを取らずに殺人を犯した人は、「産刑」という最も重い罪が適用される。男は人工子宮を埋め込まれ、女は病院で埋め込んだ避妊器具を外され、一生牢獄で命を産み続けなければならない。産み人に殺される人は「死に人」と呼ばれ、一か月の猶予が与えられた死に人は、その日が来ると連れて行かれ、全身に麻酔をかけられて、産み人と二人で窓のない白い部屋に閉じ込められる。そこから先は産み人の自由であり、半日後遺体は遺族のもとに引き取られる。死に人の葬式は普通の葬式とは違い、参列者は白い装束に身を包む。遺族には、私たちがかわりに死んでくれてありがとうございますという意味を込めて、参列者はお礼を言う。育子の姉、環は産み人であり、育子は環の付き添いとして殺人を手伝うことになるのだ。

殺人が合法とされる世界。とても異質であり、現代の私たちの常識からは考えられない。早紀子という女性は、殺人出産システムに異を唱えていた。しかし育子は今の人類にとっては、命を絶やさず、増やしていくことこそが倫理なのではないかと言いつつ、1人殺される一方で、10人の新しい命が生まれる。人口減少に歯止めがかかり、殺したいと思う人を合法で殺すことができる。産み人は、殺意という大きなエネルギーをもとに、新たな命を生み出し続けるのだ。

殺人は悪だ。現代の日本を生きる誰もがそう思っている。しかし、この殺人出産システムを前にして、このシステムを正面から否定できる人がどれほどいるだろうか。本書を読んだ後では、今後殺人出産システムが取り入れられてもおかしくないのではないかという感覚にさえ襲われる。育子と環は早紀子を殺しながら、「なんて正しい世界の中に私たちは生きているのだろう。」と考える。この世界の中では、私たちの考える正しさなど通用しない。絶対悪のはずの殺人が合法になり、殺す人は崇められるのであるから、もはや何が正しいのかわからなくなってくる。

殺人出産。本書は、狂った世界観の中で、私たちの正しさがどれだけ不確かなのか教えてくれる。本書は、殺人に対する私たちの概念を、いとも簡単に破壊する力がある。

## 講評

審査委員 経済学部教授 渡邊 孝次



今とはまったく違う世界を描いた小説を紹介しています。子どもを10人産んだら、任意の誰かを殺す権利が得られる、そういう社会です。人口減少を止めるにはそれしかない、と未来の社会が判断したという設定です。盲点を突かれるような発想ですが、この書評は、この世界に誘うのにほぼ成功しています。だから選ばれました。実際、評者も原作を読みました。読者の怖いもの見たさを煽るような、意外性をたたみかける調子に乗せられたからです。その意味では、書評の役割を十分果たしていると思います。

しかし、原作を読んで思ったのですが、この小説には「殺人が合法化されたら？」という問い以上に重要な論点がいくつも含まれています。誰かを殺す権利で釣らなければ誰も子を産まない、という設定もそれでしょう。少子化の主要因は産む苦しさではなく、産みやすい環境を作らない今の政治にあるのではないのでしょうか。また、憎い人間を殺したい執念で10人産むという設定のわりには、主人公の「環(たまき)」にはそういう特定の相手がいません。では一体、彼女を「産み人」にした動機は何なのでしょう。

色々反論はできますが、原作を読ませ、より深く考えさせる案内役を果たすという意味で、受賞に値すると判断しました。

# 2021年度 第21回 松山大学図書館書評賞応募要項

松山大学図書館では、教育活動の一環として、①学生の読書活動の促進、②大学での教育活動の質的向上、③文化・知的活動空間として大学の活性化を目標として掲げ、学生諸君から書評を募集し、優れた書評作品を表彰します。

今回から対象図書  
の範囲が広がりました。

## 1. 応募資格

松山大学学部生 及び 松山短期大学学生  
原則、松山大学図書館所蔵の図書であること。

## 2. 書評対象図書

もしくは、松山大学生生活協同組合から本学図書館が購入することができる図書。<sup>※1</sup>  
ただし、漫画、写真集、雑誌等は除く。

※1…購入希望をする場合は、できる限り早めにご相談ください。

## 3. 応募要領

- 図書1冊につき800字以上1,200字以内とする。
- 「書評賞応募用紙」(所定の様式)で作成し、データファイルで提出する。
- 応募件数は、2篇以上も可(ただし、受賞は一人1篇とする)。
- 応募作品は、未発表かつオリジナルなものに限る。
- 応募後の書評の使用権は、松山大学に帰属する。

## 4. 応募期間

2021年8月23日(月)～2021年10月7日(木) 午後5時(時間厳守)

## 5. 応募方法

「書評賞応募用紙」(所定の様式)(Word、図書館ホームページに掲載)を使用し、E-mailに添付し送付する。

(1)メールの件名に「書評賞応募 学籍番号 氏名」を記入する。

(2)宛先：mu-lib@mitsuyama-u.jp

※受領確認の返信は、翌開館日までに行う。

## 6. 表 彰

最優秀書評賞 1篇 表彰状及び副賞(図書カード2万円)  
優 秀 書 評 賞 2篇 表彰状及び副賞(図書カード1万円)  
佳 作 5篇 表彰状及び副賞(図書カード5千円)

## 7. 審 査

図書館運営委員会

## 8. 入選発表

2021年12月1日(水)正午、図書館ホームページ等にて発表する。

## 9. 表 彰 式

2021年12月中旬

## 10. 書評について

読書感想文ではなく、書評＝「書物の内容を紹介・批評すること」であること。

## 11. 受賞作品の公開

図書館ホームページ等に受賞作品と講評を掲載する。

## 12. 問い合わせ

図書館サービスカウンター

TEL.089-926-7208 Email：mu-lib@mitsuyama-u.jp

受賞作品は1F  
企画コーナーに展示  
しています

過去の  
受賞作品は  
こちら



書評賞受賞作品の図書も貸出ができます。  
興味を持った方は、ぜひ書評と一緒に読んでみてくださいね。

## 知的書評合戦「ビブリオバトル」開催

2020(令和2)年12月23日(水)樋又キャンパスH2A教室にて、「松山大学ビブリオバトル2020(後期)」(松山大学図書館・松山大学生協 共催)を開催しました。2015(平成27)年度からは年2回(前期・後期の各1回)開催していますが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により前期は中止となりました。後期は感染状況等を鑑みながら、10月開催予定を繰り下げ12月に開催しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、参加者はマスク着用、手指消毒や検温を行い、3密を避けるため例年よりも広い教室を利用し、換気、座席の間隔を空けて実施しました。

ビブリオバトルとは、バトラー(発表者)が読んで面白いと思った本を持ち寄り、一人5分間でその本を紹介し、それぞれの発表の後に、その発表に関するディスカッションを3分程度行い、全ての発表が終わったあと「どの本が一番読みたくなったか?」を基準に参加者全員で投票し、「チャンプ本」を決定します。

今回は5名のバトラーが、それぞれオススメ本を持参し、観客を前に熱意を込めて本の紹介を行いました。

発表後は、他のバトラーや参加者から質問が飛び、活発なディスカッションが繰り広げられました。

投票の結果、優勝には「首折り男のための協奏曲」(伊坂幸太郎著)を紹介した赤瀬桃佳さん(薬1年)が選ばれチャンプ本に決定しました。準優勝には「FACTFULNESS」(ハンス・ロスリング他著)を紹介した町田航太郎さん(人社4年)が選ばれました。2人には中村雅人図書館長より賞状と副賞が授与されました。

優勝者及び準優勝者の図書は、図書館の展示コーナーにて紹介しています。貸出もできますので、ぜひ読んでみてくださいね。



優勝した赤瀬桃佳さん



準優勝した町田航太郎さん

※学年は開催当時のものです。



大学図書館、公共図書館、学校、サークル、書店など日本全国に広がりをもつこのイベント“ビブリオバトル”は、地区予選、地区決戦を経て出場がかなう全国大会が毎年開催されています。2020年度に13回目を迎えた「松山大学ビブリオバトル」は地区予選にあたります。2020年度はコロナ下であり全国大会もいったん中止となったため、本学のビブリオバトルは学内開催で完結となりましたが、2021年度は通常開催(地区予選として年2回開催)を予定しています。次回のバトラーの募集は、図書館HP「イベント情報」に掲載中です!興味を持った方は、是非ご参加ください。観覧のみの参加も大歓迎です!



記念撮影(※撮影時のみマスクを外しています。)

## 企画展示図書のご紹介!

I階サービスカウンター前にある企画展示図書のご紹介です。

### 本学卒業生作家紹介

本学卒業生の作家である宇佐美まことさんの図書を紹介し展示しています。宇佐美さんは、2006(平成18)年「るんびにの子供」で第1回『幽』怪談文学賞短編部門大賞受賞、2017(平成29)年『愚者の毒』(祥伝社)で第70回日本推理作家協会賞長編及び連作短編集部門を受賞されました。

その後、次々と作品が出版され、愛媛・松山が舞台になっている作品もあります。興味のある本は是非読んでみてください。



### 直木賞・芥川賞紹介

「芥川龍之介賞(芥川賞)」、「直木三十五賞(直木賞)」とは、1935(昭和10)年に制定され、現在(財)日本文学振興会によって年2回(1・7月)選考及び授与が行われている賞です。芥川賞は、新進作家による純文学の中・短編作品のなかから選ばれます。直木賞は、新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本(長編小説もしくは短編集)が対象です。受賞作は本学図書館でも企画展示しています。



2021(令和3)年1月に第164回の受賞作が決定しました。芥川賞には宇佐見りんさんの「推し、燃ゆ」、直木賞には西條奈加さんの「心淋し川(うらさびしがわ)」が選ばれました。受賞を逃した候補作品も所蔵している場合がありますのでOPACで検索してみてください。

### 図書館のイベント紹介

「松山大学ビブリオバトル」と「松山大学書評賞」の紹介をしています。各イベントの受賞者や作品を展示しています。

図書館のイベントの詳細は、図書館ホームページ「イベント情報」でもご覧いただけますので是非一度チェックしてみてください。イベントへのご応募お待ちしております。



- 企画展示されている図書は貸出することができます。サービスカウンターまでお持ちください。貸出中の場合は、マイライブラリからご自身で予約することができます。※マイライブラリは学生・教職員のみ利用可能です。



### 他にもこんな書棚があります!!

#### ベストセラー

I階に「ベストセラー」棚があります。専門書ではなく、比較的読みやすい話題の本や書店販売ランキング上位の本を集めた本棚です。本が入ってきた年度ごとに過去3年分の本がタイトルの五十音順に並んでいます。様々なジャンルの本に出会えるチャンスです。

# 図書館学生アドバイザースタッフ「C3」



シリーズ  
「C3」  
って何？

学生に気軽に図書館を利用してもらうことを目標に、各種イベントを企画・立案・実行している学生グループが松山大学図書館学生アドバイザースタッフ「C3」です。「与えられたChance(機会)を活かし、積極的にChallenge(挑戦)していくことで、図書館をより多くの人に好きになってもらえるようにChange(変化)させていこう!」というコンセプトで3つのCの頭文字のから名付けられました。

## C3メンバー募集中!!

本が大好き! 図書館が好き! 本好きの人とつながりたい! ブックハンティングに参加したい! など、学生生活で誰かのもしくは何かのお手伝いがしたい人は是非メンバーに! お気軽にサービスカウンターまでお問合せください。お待ちしております♪

### 活動紹介

2020年度に実施した「福袋企画」と「ブックハンティング」をご紹介します。

#### ● 福袋企画

C3メンバーが選んだオススメの本をラッピングし、本の内容を紹介したPOPを貼っています。中身が分からないためPOPを頼りに気になった本を選ぶという趣向です。いつもとは違う方法で本を選び、自分では選ばないような本との出会いを作るのが目的です。前期・後期各1回(年2回)実施しています。次回もお楽しみに!



#### ● ブックハンティング

ブックハンティングとは、C3メンバーが書店へ行き、「図書館にあったらいいと思う本・みんなに読んでもらいたい本」を直接選書する活動です。2020年度ブックハンティングは新型コロナウイルス感染症の影響で「自宅で選書(オンライン選書)」を行いました。学生目線で選ばれているので、興味を持ってもらいやすい本が揃っています。1階「C3選書コーナー」の棚にあるので気になる本があれば、是非読んでみてください。貸出手続きはサービスカウンターまで。



2019年度のブックハンティングの様子

## 「C3」メンバーからオススメ本をご紹介します!!



C3選書図書館コーナーに配架しています。

### ◆『鬼滅の刃：劇場版：無限列車編ノベライズ』

吾峠呼世晴：原作 / 矢島綾：小説 / ufotable：脚本  
請求記号 Lib / 2020 / き

2020年、爆発的人气となった鬼滅の刃。劇場版作品の「鬼滅の刃無限列車編」も、歴代興行収入1位を更新しました。映画館へ足を運んだ人も多いのではないのでしょうか?今回は、その話題作のノベライズ版を選びました。映画でも、漫画でも、小説でも、鬼滅の世界を楽しんでくださいね。(人社4年 ねこさん)

### ◆『小説はたらく細胞1～3』

清水茜：原作・イラスト / 時海結以：著  
請求記号 Lib / 2020 / し

小説『はたらく細胞』は、人間の体の中の細胞が擬人化され、可愛いキャラクターの姿で、細菌やウイルスから体の健康を守るために戦う様子を描いた漫画を小説にしたものです。こちらの小説はアニメ化や映画化もされていますし、ブラック細胞などのスピンオフ作品も出ています。(法4年 M.Tさん)

### ◆『簡単解説今さら聞けないアメリカ大統領選のしくみ』

文響社編集部著  
請求記号 Lib / 2020 / か

2020年、アメリカ大統領選があり、多くの方が注目しました。しかし、大統領選のしくみは難しく、よくわからないと感じていた人、興味が湧かなかった人もおそらくいるでしょう。本書は、アメリカ大統領選のしくみや疑問を図や絵でわかりやすく解説しています!基礎から学習でき、教養の得られる一冊です!(人英3年 山田太郎さん)

※学年は2020年度のもので。

